

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

「移民の継承語とエスニックアイデンティティに関する社会言語学的研究」(2022年度第3回・通算第6回研究会)

2023年度第3回研究会(通算第6回目) / 第31回東京移民言語フォーラム

日時: 2023年2月17日(金) 14:00-16:45

場所: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所3階303号室 / Zoomによるオンライン開催(対面とZoomによるハイブリッド開催)

主催: AA研基幹研究「アジア・アフリカの言語動態の記述と記録: アジア・アフリカに生きる人々の言語・文化への深い理解を目指して」(DDDLing)

協賛: 東京移民言語フォーラム

報告者: 安達真弓(AA研)

会の始めに、代表者である安達から「トロントで行われている継承語の変異・変化研究プロジェクトの研究成果についての情報共有を行う」という第6回研究会の位置づけについての説明があった。その後、1件の研究報告と討論が行われた。以下に当該報告の要旨と、討論の内容をまとめる。

日比谷潤子(AA研共同研究員, 聖心女子学院 常務理事)

「トロントプロジェクト: これまでの研究成果について」

トロント大学の Naomi Nagy 教授を中心とするグループは、カナダの Social Sciences and Humanities Research Council の助成を受け、トロントで日常的に使用されている公用語(英語・フランス語)以外の言語の実態および変化を解明することを目的として、2009年より Heritage Language Variation and Change (以下 HLVC) と題するプロジェクトを遂行している。本発表では同プロジェクトの成果の中から、3つの論文の内容を解説した。

本題に入る前に、カナダの言語状況への理解を深めるため、国勢調査(2016年)の結果の一部を概観した。公用語以外(継承語)を母語(25%)・家庭語(12.7%)とする回答は上昇し続けているが、その割合は州・準州によって大きく違う。また三大都市(モントリオール、バンクーバー、トロント)の比較でも、モントリオールとそれ以外とは異なる様相を呈している。トロントは母語率・家庭語率とも最も高く、最新の国勢調査(2021年)データから上位15言語および2016年からの増減に言及した。

Nagy(2017, 2021)に基づく HLVC の概要(データ収集方法、分析内容)紹介に続き、Nagy(2022)で報告されたイタリア語の DOM (differential object marking) を取り上げた。質疑応答

では、国勢調査の政策への反映、DOM 分析結果と他地域における継承語の特徴と類似点等について議論を深めた。

最後に、「共共課題」への示唆として、データベース作成の可能性について意見交換を行った。

研究会には 18 名（うち代表者・所員・共同研究員 15 名）の参加があり、盛況のうちに行われた。

以上  
(文責・安達真弓)